

令和 6 年 5 月 17 日現在

機関番号：13201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2021～2023

課題番号：21K00621

研究課題名(和文) 外国語としての日本語学習者のための参照文法の開発

研究課題名(英文) Reference grammar for Japanese language learners

研究代表者

ヨフコバ四位 エレオノラ (Yovkova Shii, Eleonora)

富山大学・学術研究部教養教育学系・教授

研究者番号：10512410

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：研究期間全体を通じて、初級日本語文法の開発のための研究をし、またその成果として初級日本語文法の解説書(『日本語参照文法』)のwebツールを構築し公開した。構築したツールは、オンラインで利用可能であり、また、文章の読み上げや自動翻訳といった便利な機能を備えており、多様な学習者や自律学習も含めた多様な環境での学習に対応できる。本参照文法の最大の特徴は文型の記述を、学習者が文法の学習で最も求めている類義表現の使い分けという観点から行っていることである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

『日本語参照文法』は、類義表現の使い分けなど従来の文法説明では欠けている点を補完し、学習者の体系的な文法理解を促進できる。その結果、的確な日本語の理解と産出に貢献できる。また、学習者の文法への疑問に応えられる参照文法を充実させweb上で公開することで、多様性や新学習様式(オンライン授業、オンデマンド授業等)に対応する自律的な文法学習環境を創設できる。学習者がクラスで十分に理解できなかった文法や未習文法についても、教師に頼らず、また使用教材に縛られず、自分にあった学習を進めていくことができる。学習面での効果に加え、本研究課題は、研究が進んでいない教材分析研究にも寄与できる。

研究成果の概要(英文)：Throughout the research period, we conducted research for the development of a beginner Japanese grammar book, and as a result, we built and published a web tool for a manual on elementary Japanese grammar ("Japanese Reference Grammar"). The tool is available online and have convenient functions such as reading aloud and automatic translation, and can be used by a variety of learners and learning in a variety of environments, including autonomous learning. The most important feature of this reference grammar is that it describes sentence patterns from the perspective of using synonymous expressions, which is what learners are most looking for in grammar learning.

研究分野：日本語教育

キーワード：日本語教育 文法 オンラインツール 参照文法 自律学習

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

日本語学習者は年々増加しており、また学習目的および学習方法の多様化も進んでいる。学習者の増加と学習スタイルの多様化に対応すべく、教育内容・方法の充実、指導法の改善が求められている。その中、見直しが必要とされる日本語教育分野の一つは日本語教育文法である。特に、教育現場での課題として指摘されているのは、現場で必要とされる十分な情報を盛り込んだ日本語教育文法がまだ確立されておらず、学習者が知りたいと思っている情報の提供が不足し、文法の記述が学習者の視点には立っていないということである。そのため、学習者のニーズに合った文法学習のためのリソースの開発が必要である。

2. 研究の目的

本研究の目的は日本語学習者が自ら読んで理解できる文法解説書(『参照文法』)の開発である。文法解説書の文法項目の記述には、記述文法研究の成果を取り入れ、また、学習者が理解しやすいよう簡潔で平易な記述を施し、文法形式の運用に必要な実用的な用例を記載する。さらに、従来の文法解説書では一般的に取り上げられてこなかった類義表現のパラディグマティックな関係に焦点を当て、文法項目の記述は、類義表現の使い分けという観点から行う。

『参照文法』は、日本語学習の土台を築き重要性が最も高い初級の文法に焦点を置き、初級者の継続学習に寄与することを目指す。研究の成果をweb上に公開する。本研究は、多様な学習者および多様な学習環境に対応した自律的な学習の支援に加え、学習者のための記述文法の研究に貢献する。

3. 研究の方法

本研究は次のように進めた。

(1) 『参照文法』に収録する文法項目の選定

旧日本語能力試験(JLPT)4級・3級およびCEFRのA1レベル~B1レベルの目安で、『参照文法』に収録する文法項目(120文法項目)を決定した。

(2) 文法項目の記述に用いる情報を精査した。

(3) webツール構築のための基盤作り(サーバー契約、webツールへのデータ入力に必要なソフトウェアのインストールなど)を行った。

(4) 『参照文法』の文法項目の記述をし、webツールに文法項目のデータを入力した。

(5) 報告会および学会発表

研究の成果は報告会(早稲田大学、2023.1)および学会(日本語教育方法研究会、2022.9;第26回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム/第17回EAJS国際会議、2023.8;タイ国日本語教育研究会第36回年次セミナー、2024.3)で発表し、国内外の日本語教育関係者と情報を共有した。

(6) webツールを公開した。

4. 研究成果

本研究の目的であった日本語学習者のための文法書(『参照文法』)を開発し、webツールを完成整備し、webツール(『日本語参照文法 初級日本語文法の総まとめ』)を公開した(URL:<https://sansyo-bunpo.net/>)。『日本語参照文法』は、図1にあるように、3つのパートから構成されている。パート1(「はじめに」)には、プロジェクトの記述に加え、文法書の使い方および用語の解説を掲載している。パート2(「基礎編」)には、品詞や活用などに関する

る13項目の記述を収録した情報を掲載している。パート3（「文型編」）には、120文法項目の記述および文法項目の確認問題の解答を掲載している。

『参照文法』の記述で特にこだわったのは、文型の使用に必要な、意味や用法が似ている文型の使い分けのための情報を明確にすることである。文法項目には、記述文法研究の成果を取り入れ、学習者が理解しやすいよう簡潔で平易な記述を施し、また文法形式の運用に必要な実用的な用例を記載している。

各文型のページには、文型の基本情報(旧 JLPT 該当級、品詞、前接、意味)を使い分けが必要な文法・文型、文型を使う上で理解が必要な情報、文型の機能ごとの記述(意味、用例、使い分けが必要な文型・文法とその用例、使い分けが必要な文型・文法の違いなど)確認問題などの情報を記載している。

また、web ツールには、文章の読み上げや多言語翻訳といった便利な機能を備え付けている。

『参照文法』のターゲットは初級を終えた学習者であるが、初級の学習者も使用できるように工夫を施している。また、日本語教師など日本語教育関係者にも、文法指導上の留意点の確認のために利用していただくことが可能である。

本研究を通して、文法研究で課題として指摘されてきた(砂川有里子 2006)外国語としての日本語教育のための記述文法の活性化に貢献できる。また、開発が進んでいない文法学習のためのオンラインリソースの開発にも貢献できる。さらに、本ツールの開発で、国内外の多様な学習環境にいる学習者の自律学習の促進に寄与する。

引用文献

砂川有里子(2006)「3. 文法研究と文法教育との接点 - 日本語教育の立場から - 」山室和也、砂川有里子、森山卓郎、鈴木泰 / 司会・仁田義雄「文法研究と文法教育『日本語学会 2006 年度春季大会シンポジウム報告』

日本語参照文法
初級日本語文法の総まとめ

トレース・プロジェクト概要・文法書の使い方・top

はじめに

- プロジェクト概要
- 文法書の使い方
- 用語の説明

参照文法：目次

【基礎編】

- ①助詞
- ②名詞
- ③形容詞
- ④こそあ・指示詞
- ⑤動詞ます形
- ⑥動詞活用
- ⑦授受動詞
- ⑧動詞のタイプ
- ⑨疑問詞
- ⑩文体
- ⑪敬語
- ⑫名詞修飾
- ⑬文のタイプ

【文型編】

- 1あげる
- 2あとで
- 3あまり(～ない)
- 4ある

図1 『日本ご参照文法』web ツール

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 ヨフコバ四位エレオノラ・稲葉和栄・久保田美子・堀恵子	4. 巻 29
2. 論文標題 学習者のための初級日本語文法ウェブツールの開発	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本語教育方法研究会誌	6. 最初と最後の頁 66 - 67
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.19022/jlem.29.1_66	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 ヨフコバ四位エレオノラ・堀恵子・稲葉和栄	4. 巻 26
2. 論文標題 日本語学習者のための参照文法	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 ヨーロッパ日本語教育論集	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 ヨフコバ四位 エレオノラ	4. 巻 5
2. 論文標題 日本語学習者のための文法のオンラインリソースの開発	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 富山大学教養教育院紀要	6. 最初と最後の頁 1~13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件/うち国際学会 2件）

1. 発表者名 ヨフコバ四位エレオノラ・稲葉和栄・久保田美子・堀恵子
2. 発表標題 学習者のための初級日本語文法ウェブツールの開発
3. 学会等名 日本語教育方法研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 ヨフコバ四位エレオノラ・堀恵子・稲葉和栄
2. 発表標題 日本語学習者のための参照文法
3. 学会等名 第26回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム/第17回EAJS国際会議（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 ヨフコバ四位エレオノラ
2. 発表標題 文法の教育および自律学習
3. 学会等名 タイ国日本語教育研究会第36回年次セミナー（国際学会）
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	久保田 美子 (Kubota Yoshiko) (90401728)	早稲田大学・日本語教育研究センター・教授（任期付） (32689)	
研究分担者	稲葉 和栄 (Inaba Kazue) (70772242)	秀明大学・観光ビジネス学部・講師 (32513)	
研究分担者	堀 恵子 (Hori Keiko) (70420809)	東洋大学・人間科学総合研究所・客員研究員 (32663)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	李 在鎬 (Lee Jae-Ho) (20450695)	早稲田大学・国際学院（日本語教育研究科）・教授 (32689)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関